

目次

理事長からの挨拶：HCD-Netのミッションと中期目標について	1
広報社会化事業領域	3
教育事業領域	4
ビジネス支援事業領域	5
研究事業領域	6
関西支部	7
HCD専門資格認定センター	8
HCDベストプラクティスアワード表彰委員会	8
イベント一覧	9
HCD-Net フォーラム	10
主なセミナー	11
決算報告 2020年度 活動計算書	12
2020年度 貸借対照表／財産目録	13
2020年度 計算書類の注記	14
組織図／機構役員一覧	15
賛助会員の皆さま	16

表紙のグラフィックレコーディング：小野寺夏海、濱西冴月

理事長からの挨拶:HCD-Netのミッションと中期目標について

HCD-Netのミッション

人間中心設計推進機構(以下、HCD-Net)は、HCD(人間中心設計/人間中心デザイン)のあり方を追求する特定非営利活動法人(NPO法人)です。ミッションにおいては、設立の当初から「HCDに関する学際的な知識・経験を集め、産学を超えた人間尊重の英知を束ね、HCDを導入し、活用するために必要なさまざまな知識や方法を適切に提供する」という方針を掲げてきました。このミッションを具体化したスローガンとして、「多くの人々が便利に快適に暮らせる社会作りへの貢献」、「経済の発展への寄与」、「豊かでストレスのない実りある社会の実現」をうたっています。

近年では、HCDに寄せられる期待も多岐にわたっており、2020年に発行された『デザイン政策ハンドブック 2020(経産省、2020年3月30日)』では、序文において「デザインの対象や解決すべき問題の複雑化に伴い、現代においては、人間に焦点を当てたイノベーションの方法論として、デザイン思考などに代表される「人間中心デザイン(Human Centered Design)」に対する注目が集まっています。一一と明記されました。

まさに、多くの人々が便利に快適に暮らせる社会作りに貢献することに加えて、経済の発展へと至るイノベーションの推進においても、私たちの果たすべき役割としてのHCDの実践に注目が集まっていると言えるでしょう。

HCD-Netの中期目標(2020-2022)からの方針

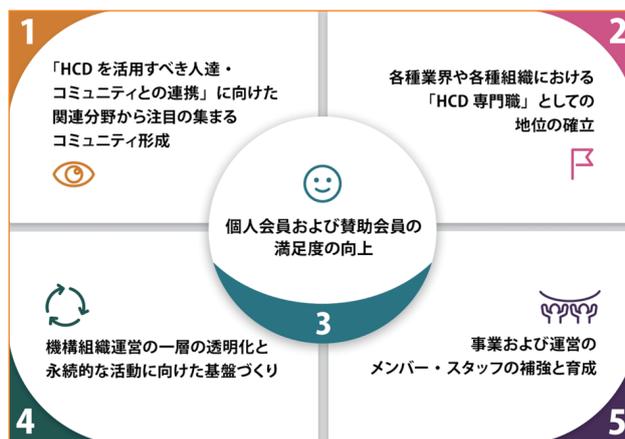
HCD-Netでは2020年に3カ年にわたった「中期目標」(図A)を設定いたしました。そこでは、「個人会員および賛助会員の満足度の向上」を中核に据えた上で、以下のような目標と取り組みの方針を掲げています。

● 団体が進むべき目標

- ・「HCDを活用すべき人達・コミュニティとの連携」に向けた関連分野から注目の集まるコミュニティ形成
- ・各種業界や各種組織における「HCD専門職」としての地位の確立

● 団体そのものの持続化を目指す基礎的な目標

- ・機構組織運営の一層の透明化と持続的な活動に向けた基盤づくり
- ・事業および運営のメンバー・スタッフの補強と育成



図A. HCD-Net 中期目標 (2020-2022)

これらの中期目標から「2021年度における重点目標」についてご説明します。

● 「個人会員および賛助会員の満足度の向上」について

2009年度に開始した「人間中心設計専門家(Certified Human Centered Design Professional)」の認定制度に関する受験者数の健全な拡充を図ることです。HCD領域への期待の高まりを反映して年々増加の傾向(※)にある制度に対して、NPO団体としての公平で健全な運営を行います。また、「HCD正会員・学生会員の増員と会員メリット策の強化」を目指すことは、より活発な団体活動を行う上で最重要の課題です。同時に、産業界からの期待に応えるべく「HCD賛助会員の増員と賛助会員メリット策の強化」は、会員へのサービス向上とともに最も注力すべき課題と捉えています。(※次ページ「会員数と(累計)認定者数の推移」を参照)

● 「HCDを活用すべき人達・コミュニティとの連携」について

2019年度より活動を再開した「HCD-Net AWARDの継続と発展」が挙げられます。AWARDへの注目が高まることによって、多くのHCDの実践事例を世の中に紹介できると同時に、HCDコミュニティ内においても事例やノウハウを共有できる好循環が見込まれます。加えて、従来からの情報発信(各種イベント、Web、SNS)のより一層の拡充と、同じく従来からの各種研究活動(投稿・掲載論文、発表論文、SIG活動)をより活発化させていくことがあります。HCDの持つ価値を私たちのコミュニティのみに閉じることなく「各種コミュニティとの連携・未来を見据えたコミュニティ(ex.子供に関する活動体)への貢献」を目指していきます。

● 「各種業界や各種組織における「HCD専門職」としての地位の確立」について

2020年度に大きな一歩を踏み出しました。最初に、HCD専門家認定センター内のWG(ワーキンググループ)に端を発した「HCD基礎知識検定」の活動が、各種業界を横断する基礎知識としての啓発段階に入っています。今後はHCD専門家にとって必要となる「HCD基礎知識体系(HCD-BOK: Body Of Knowledge)」の整備に向けた活動と、広く

世の中に貢献するための「HCD基礎知識検定」の事業化へと向かいます。また、HCDの専門家における「倫理綱領」と「行動規範」の確立を目指した「HCD倫理規定検討WG」の活動が始まりました。この活動は、HCD-Netが「専門職(profession)」としての業界的な確立に向けた一歩を踏み出したと言えるでしょう。同時に、「行政や自治体からの公的な認知と法的な保護の獲得」につながる活動も活発化しています。現在、HCDの理事や会員たちが、行政のプロジェクトに従事したり、行政の顧問やアドバイザー・指導者として一定の役割を担ったりすることが、何よりの証左です。

●「機構組織運営の一層の透明化と持続的な活動に向けた基盤づくり」について

HCD-Netの運営を支える「事務局の補強・強化と支援体制の強化」が重要な課題です。HCD-Netのミッションを果たすべくボランティア精神を持って集う会員たちを、しっかりと運営面で支える事務局やその支援体制の補強・強化は大事なテーマです。そして、「従来からの基盤となる事業活動の維持と継続」から「事業の収益化の検討と施策の実施」へと至る道筋は、緊喫の課題といっても過言ではありません。

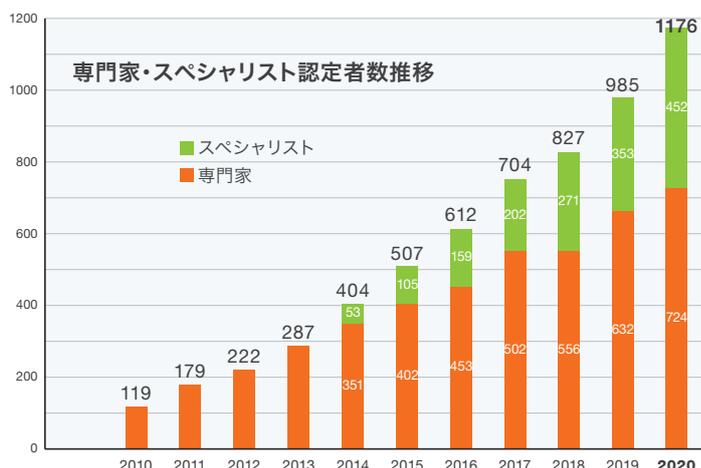
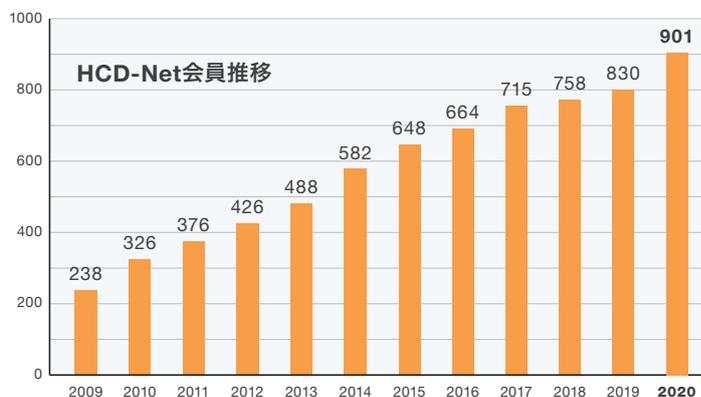
●「事業運営メンバー・スタッフの補強と育成」について

本中期計画を掲げた昨年度(2020年度)においては、「HCD専門家認定センター」における新しい運営体制づくりに注力しました。そして、2021年度においては、昨年度同様、本団体の支柱である研究事業部と広報社会化事業部において、新たな体制への移行が始まります。「HCD-Net AWARD」と「HCD-Netフォーラム」の各委員会を広報社会化事業部として統合し、「各事業部を横断する活動体」としての再編に着手。同時に、「各事業部の活動を担う主力メンバーの補強と次世代メンバーの開拓・育成」と「後進の育成と業界を支えるエキスパートの結集」といった課題に対して、各事業部や委員会などが一体となって進める上でも、この「各事業部を横断する活動体」は今後の鍵を握ることでしょう。

各種の市場や団体から期待の集まる私たちのコミュニティは、以上のような目標と方針を掲げ、より一層の発展を目指して活動して参ります。どうか本機構の主旨や諸活動に対するご理解と叱咤激励を賜りながら、より多くの皆さまの積極的なご参加を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

会員数と(累計)認定者数の推移

HCD-Netの2020年度末の正会員数と専門家/スペシャリストの認定者数については以下の通り、堅調に増加しています。昨年度以前からの推移については、グラフを参照してください。



広報社会化事業領域

2018年度からHCD-Netが活動方針を改めたことをきっかけに、広報社会化事業領域では、HCD実践者との接点づくりを積極的に行っています。2020年度はアニュアルレポート2019の発行、2019年度アワードと連動したサロン、ケーススタディコンテンツの作成などを行いました。また、コロナ禍の状況に合わせた企画として、オンラインツールのテスト運用や書籍『行動を変えるデザイン』との連動イベントなども実施しました。

※：事業部委員についてはサイトをご覧ください <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>

2020年度の活動

● ケーススタディコンテンツ

2019年度 HCD-Net アワードで最優秀賞を受賞した「当事者を主体者に変える、『動機的设计』とプロセスモデル」について、受賞者へのインタビューをもとに記事化してHCD-Netのサイトに掲載しました。今後はこのようなHCD-Netの活動が広く知られるよう、発信する機会を増やしていく予定です。

・ケーススタディ Vol.1 | 当事者を主体者に変える「動機的设计」とプロセスモデルとは？(7/26)

2019年度HCD-Net アワード最優秀賞を受賞した「当事者を主体者に変える、『動機的设计』とプロセスモデル」について、受賞者へのインタビューをもとにコンテンツを作成しました。 https://www.hcdnet.org/practice/award/case_study/case_study1/entry-1482.html

● アニュアルレポート

2017年に2016年度のアニュアルレポートを発行して以来、しばらく休刊していたアニュアルレポートを再開しました。今後は毎年継続的に発行していく予定です。

・2019アニュアルレポート発行 <https://www.hcdnet.org/organization/news/hcd-1458.html>

● HCD-Net サロン

新型コロナによりHCD-Netサロンも他のイベントと同様、オンラインで開催しました。今後も、聴講者の皆さまが自分ごととしてHCDのナレッジを理解し現場で実践できるよう、また登壇者の皆さまにとっても新たな気付きとなるようなサロンを目指し企画運営していきます。

・臨時開催「オンラインツールのオートエスノグラフィ」(5/22)

コロナ禍でのワークショップやオンラインリサーチ実践のために、ワークショップやリサーチに用いるさまざまなオンラインツールを試してみ、その所感やノウハウを共有するサロンを開催しました。当日は参加者と各オンラインツールを試用し、各ツールの違いを実感・理解しディスカッションを行いました。

・「出版記念サロン『行動を変えるデザイン』」(7/10)

オライリージャパンから2020年6月11日に出版された『行動を変えるデザイン - 心理学と行動経済学をプロダクトデザインに活用する』の発刊を記念して、監訳者の慶應義塾大学 武山政直氏、翻訳を担当された相島雅樹氏、反中望氏、松村草也氏ら、その翻訳に関わった方々をお呼びしてサロンを開催しました。HCDプロセスとの相違点、ユーザーの思考度合いやユーザーの持つ習慣について組織としてどこまで理解しているか、OMO(Online Merges with Offline)実現のためにどうすべきかなど、複数の視点から対話が生まれたサロンとなりました。

・第79回HCD-Netサロン「AWARD2019年最優秀賞『動機的设计』発案者にいろいろ聞いてみよう！」(7/17)

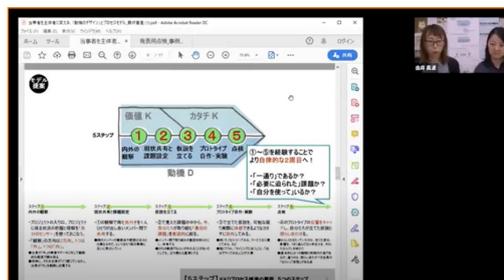
「HCD-Net AWARD 2020」開催決定に先立ち、2019年度最優秀賞を受賞された由井真波氏を招き、オンライントークイベントを開催しました。サロンの裏側でグラフィックレコーディングを実施し、サロンの最後に登壇者や聴講者の皆さんと振り返ったり、サロン聴講者の皆さんにリアルタイムで共有のスプレッドシートに感想を書き込んでいただいたり、さらにはAWARD審査員から改めて具体的にどの点をナレッジ共有したいと考えたのかなど直接お答えいただいたり、聴講者の皆さまが多角的な視点で気付きを得られる工夫を凝らして開催しました。



ケーススタディコンテンツ インタビューの様子



HCD-Net アニュアルレポート 2019



第79回HCD-Netサロン開催の様様



教育事業領域

教育事業部のミッションはHCD/UXDに関する知見の体系化、およびその教育を受ける機会を提供することです。ある程度まとまった知識・学び方などを伝えるセミナーを企画・運営しています。2020年度のセミナーは全てオンラインで開催しました。また、昨年度まで東海地区でセミナーを開催していたメンバーが東海支部を設立し、2020年度は教育事業部傘下で活動を開始しました。

※：事業部委員についてはサイトをご覧ください <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>

2020年度の活動

オンライン開催で参加者同士の交流がしづらいという面もありましたが、時間や地理的な問題で今まで参加できなかった人たちにも学びの機会を提供できるという良い面もありました。

各講座開催にあたっては、見逃し録画配信を用意したり、テーブルを周る代わりに1グループ1チューター担当制にしたり、講師やチューターの方々に今までにない工夫など尽力いただきました。オンラインワークショップでは、参加者の方々にも多大なご協力をいただきました。

● 体系的セミナー

- 体系的に学ぶ機会として、UXデザインのシリーズセミナー、およびHCDコンピタンスを軸としたセミナーを開催しました。
 - ・「UXデザイン連続セミナー(全6回)」井登友一氏
 - ・HCDコンピタンス知識編「ユーザビリティ評価(全3回)」伊藤泰久氏、人見幸香氏、樽本徹也氏
 - ・HCDコンピタンス知識編「ユーザー調査・概論」太田文明氏(同一内容2回開催)

また、ユーザー要求を実現するために重要な情報アーキテクチャーに関するセミナーを、実践編と演習編に分けて開催しました。

- ・「情報構造設計の考え方と実践 ～UIの設計・サービスの設計～」大橋庄司氏
- ・「トークセッション:情報アーキテクチャの思考法ー不確実な時代のUXデザインに向けてー」大橋庄司氏、小山田那由他氏、他

● 普及啓発活動

HCDの普及・啓発として、入門講座、およびまだ定番教科書のないHCD視点でのコンセプト評価に関わる話題提供イベントを開催しました。

- ・「人間中心設計入門ーHCDでアフターコロナの世界を創るー」上林昭氏
- ・JISTA九州勉強会「HCD(人間中心設計)とは～顧客視点で考える設計方法論のご紹介～」中村隆俊氏
- ・「(仮)コンセプト評価とプロトタイプング」伊藤泰久氏、坂口和敏氏、草野孔希氏

● 東海支部

東海支部では地域の特性に合ったイベント企画を実施しました。

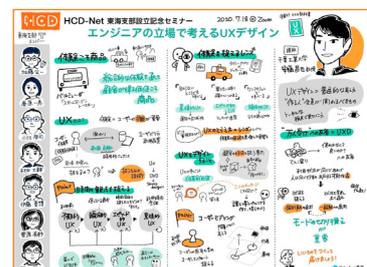
- ・HCD-Net東海支部の設立記念セミナー「エンジニアの立場で考えるUXデザイン」安藤昌也氏
- ・価値観の変化を的確に捉える「海外UXリサーチの価値と効果」井出健太郎氏



「UXデザイン連続セミナー」



「人間中心設計入門
ーHCDでアフターコロナの世界を創るー」



「エンジニアの立場で考えるUXデザイン」
グラフィックレコーディング(川田氏)

ビジネス支援事業領域

ビジネス支援事業部は2020年度より組織体系を改め、HCD 専門家のスキルを発揮できる環境づくりを目指して「HCD マインドセット醸成委員会」、「HCD 導入パターンワーキンググループ(中間層&現場向け支援委員会)」、「自動運転社会におけるHAII検討委員会」、「利用品質メトリクス委員会」、「HCSA 委員会」の5つの委員会が活動しています。

※:事業部委員についてはサイトをご覧ください <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>

2020年度の活動

● HCD マインドセット醸成委員会

経営層へ向けたHCD 導入支援、HCD 人材育成を目的にした、HCD を中核としたDX 戦略づくりや組織文化づくりを検討する「HCD-OS 共創プロジェクト」の活動に注力しています。

● HCD 導入パターンワーキンググループ(中間層&現場向け支援委員会)

当ワーキンググループでは、HCD の組織導入で起こりがちな問題と解法のパターン化(可視化)を試みています。2020年度は、2019年度に収集したHCD 導入事例の分析とパターンの試作までを行いました。なお2020年度はコロナ感染対策として一時活動を休止し、活動オンライン化のための準備作業を経て、9月より活動を再開しました。

● 自動運転社会におけるHAII(Human AI Interaction)検討委員会

HAII 検討委員会は、HCD がより広く産業界に普及していくための仕組みづくりを目指し、2020年度より正式に委員会として活動を開始しました。初年度は自動運転社会の現状を調査し検討する活動を「誰のための/影響」「責任の境界/過失相殺割合」「合意形成/人間の振舞い」「ガイドライン」の各ワーキンググループで展開しました。

また、人間工学会への5つの関連論文がJ-Stageの人間工学第56巻特別号(Supplement)に掲載され、HCD-Net 春季HCD 研究発表会では「自動運転社会におけるHAII(Human AI Interaction)の考察」が、優秀講演賞を受賞しました。

● 利用時の品質普及委員会

利用時品質の普及、浸透に向けたイベントとして、UX 設計技術推進協会(UXDQ)との共催による「要求定義セミナー【解説編】・【演習編】」と「利用品質メトリクス開発ワークショップ」を連動開催しました。ワークショップでは、座学部分を充実させるためビデオ視聴型セミナーとし、講義部分を理論編とワークショップ演習編に分けて動画配信しました。「利用時の品質普及委員会談話会」は2回開催し、ZOOMのブレイクアウトルームを利用したフリーディスカッションなど新たな試みを実施しました。

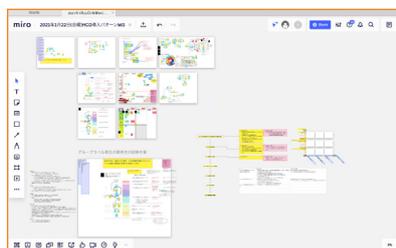
また、例年、東海大学辛島研究室のご協力をいただき開催しているゼミは、対面とオンラインで11回実施。特急券購入サイトを題材に利用品質メトリクスの属性を導出し、計測まで行うことができました。2月からは日本人間工学会:JENC(人間工学会内のISO 対応委員会)との共催で、近年JIS化されたHCD や利用時の品質に関するISO 規格の解説セミナーをISO 国内審議委員のメンバーを中心に年度内に2回開催しました。

● HCSA(Human Centered System Architecture)委員会

HCD の実践に欠かすことができない開発チーム内の多様な専門家同士の対話を支援し、チームビルディングを促進するツール「Morris」の体験ワークショップを3回実施しました。オンラインホワイトボードMiroを利用し、記録のしやすさやツールの一覧性に優れている点など、リアル開催にはないオンラインならではのメリットも発見することができました。

● ビジネス支援事業部運営委員会

ET & IoT Digital 2020 カンファレンスプログラム(11月16日~12月18日)では、5週間のオンライン会期中に、全11タイトルのビデオ講演でカンファレンスに参加し、各委員会の活動内容を紹介しました。



HCD 導入パターンワーキンググループ



利用品質メトリクス開発ワークショップ



「Morris」体験ワークショップ



研究事業領域

研究事業部のミッションは、人間中心設計に関する研究活動の活性化を図ることです。具体的には研究成果の発表の場として、研究発表会を年2回開催するとともに、機構誌を発行しています。また、機構誌に掲載する研究論文の査読プロセスを担う編集委員会を運営しています。さらに研究活動の場としてSIGのサポートをしています。

※：事業部委員についてはサイトをご覧ください <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>

2020年度の活動

● HCD 研究発表会

2020年度はコロナ禍の影響により春季(6月6日)、冬季(11月28日)ともZoomを用いてオンラインで開催されました。

【春季】

オンライン開催によりポスター発表形式が困難なため、全て口頭発表形式にいただき、13件の研究発表が行われました。

・優秀講演賞：「自動運転社会におけるHAI(Human AI Interaction)の考察」(鱗原晴彦氏/株式会社U'eyes Designら)

【冬季】

Forum2020との共催で、口頭発表8件に加え、オンライン開催におけるポスター発表形式に代わる新たな試みとして、ビデオ発表形式を採用し13件の研究発表が行われました。

・優秀講演賞：「眼球運動に基づくVRコンテンツ評価支援ツールの提案」(鈴木舜也氏/和歌山大学ら)

・優秀ビデオ賞：「新規事業におけるインクルーシブデザインの重要性 ロボットtoioの事例」(中山哲法氏/株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント)

● 機構誌を発行

機構誌をJ-STAGEに収録し公開しました(※)。機構誌を1号発行し、1号には査読付き論文3編を掲載しました。

※：<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/hcd/-char/ja>

● SIG 活動

2020年度は1つのSIGが活動中で、もう1つのSIGが休止中となっております。

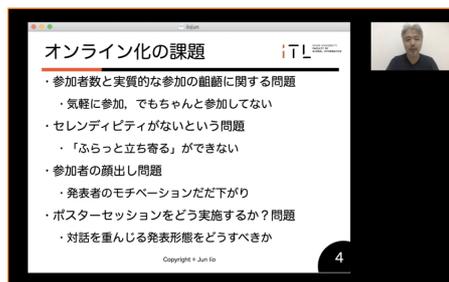
社会基盤とHCDをつなぐ数少ない国内の場である社会基盤SIGでは、日常よりFacebook Group、メーリングリストを利用した情報や意見の交換を続けています。加えて期間中にはオンラインでのミーティングを2回開催しました。

また、メンバーには研究発表会での発表を呼びかけており、春季、冬季の合計で3件の発表がありました。研究事業部では新たなSIGの活動をサポートしたいと考えておりますので、ぜひお問い合わせください。

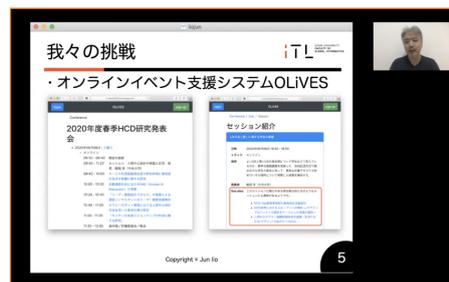
研究事業部は コロナ禍によりオンラインとなりましたが、例年通り2回の研究発表会を開催し、皆さまの研究活動を最低限サポートできたと思います。2021年度もまだコロナ禍の制約は続くと思われるので、今年の経験を糧にさらに研究発表会を活性化できればと考えております。一方でここ数年さらなる研究活動の活性化を図るためには、人的資源の不足を感じています。研究事業部では活動に新たな風をもたらしてくれるメンバーを求めています。



YouTubeを使っての情報発信



オンライン化の課題



オンラインイベントへの取り組み

西 関西支部

2013年1月25日の設立以来、関西を始めとする首都圏以外の地域において、HCDの実践を促進することを目的にセミナーやワークショップを企画・主催しています。知識や技術を体系的に学べる階段型、多様な実践への道筋を学べる登山型、それぞれの学びの場を提供していきたいと考えています。そして、皆さまの取り組みを発表する場を設け、さらなる学びが得られるようにしていきたいと思ひます。また、将来を見据えて子供向けのイベントも継続して開催していきます。

※：事業部委員についてはサイトをご覧ください <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>

2020年度の活動

● イベント開催

2020年のイベントは新型コロナウイルスの影響で、全てオンライン開催となりました。皆さまと直接お会いする機会がなかったことは大変残念でしたが、関東含め全国各地から関西支部のイベントに参加いただけるなど、オンラインならではのメリットもありますので、今後も必要に応じてオンライン開催を検討していきたいと思ひます

【階段型】

- ・デザイナーは何をすべきか -『UX原論』の視点から-
- ・UX思考 = 「行為のデザイン思考」
- ・UXのためのデザイン『「ついやってしまう」体験のつくりかた』

【登山型】

- ・HCD-Net 関西フォーラム2020「人間中心設計プロセスを捉え直す。枠の外、枠の奥底にあるもの。」

【発表の場】

- ・ビジョンとUXデザイン ～HCD事例発表会 + Future Experience(FX)フォーラム～
- ・ヘルスケア領域における人間中心設計・デザイン

【子供向け】

- ・子供の「発想力」を鍛えるデザインワークショップ！ 紙の工作～ストーリーとモールドでツリーをつくってサンタさんをたすけよう！～
- ・子供の「発想力」を鍛えるデザインワークショップ！ おとぼなし！～おえかきが女の子を救う！～
- ・子供の「発想力」を鍛えるデザインワークショップ！ 絵本作家になろう！～どうぶつさんたちのお悩み解決～

● 関西支部による学会発表等

- ・2泊3日で学ぶ、写真KJ法ワークショップの実践(日本人間工学会)
- ・人間中心設計プロセスのキャズムを埋めるKJ法(デザイン人間工学報告会)

● 重点的な取り組み

関西支部では、文化人類学者である川喜田二郎東京工業大学名誉教授が考案された「KJ法」の教育に力を入れています。ユーザー調査結果の分析は、HCDサイクルの中でも重要なステップですが、インタビュー結果をラベルに書き出し、それを単に構造化して真のニーズが得られたなどと説明しているワークショップなどが多く見受けられます。しかし、こうした表面的な分析では、誰もが思いつくようなアイデアしか生まれないことが多いのです。HCDの根幹は人を深く理解することであり、それにより新しい気付き・発想が得られます。そのためには、川喜田先生が言う「虚心坦懐に己を空しうしてラベルの語りかける声を傾聴する」とした境地に達する分析の必要があると考えます。要求分析やアイデア発想の本質をお伝えできればと考えており、主な活動としては「合宿形式で学ぶ、写真KJ法ワークショップ」という学びの場を毎年提供しています。残念ながら、2020年および2021年のワークショップは新型コロナウイルスの影響で中止となりました。2022年は開催(候補地：青森県)できるよう鋭意検討中です。



子供向けイベント運営の様子



キャズムを埋めるKJ法



2泊3日でのワークショップ

✓ HCD 専門資格認定センター

HCD 専門資格認定センターは、「人間中心設計専門家」と「人間中心設計スペシャリスト」の資格制度を運営しています。資格認定制度が始まって11年を迎え、累計の認定者は合計で約1170名となります。

● 特長

- ・実績に基づく審査のため、スキルを客観的に証明できます。
- ・受験者にとっては、第三者の客観的な保証になるので、企業内で評価されやすい資格となります。
- ・企業にとっては、人間中心設計のスキルを持つ人材について、第三者の客観的な保証を得ることができます。

2020年度には「人間中心設計専門家」は「第12期」、「人間中心設計スペシャリスト」は「第8期」の認定試験を実施しました。受験者数は毎年、二桁伸長を続けており、UXデザインやHCD分野において有用性のある資格としての存在感を確立しています。現在、当センターでは、受験に必要な申請書類の踏み込んだ改善や、プロジェクト整理シートの拡充、説明会資料の改訂といった施策を進めています。

当センター内の「基礎知識検討ワーキンググループ」では、より広い層の認定を目指した新制度の検討を進めています。成果の一つとしてHCDの基礎知識を体系化し、「HCD(Human Centered Design)の考え方と基礎知識体系～Society5.0・デジタルトランスフォーメーション(DX)時代の人間中心デザイン～」報告書をまとめ、2020年11月に公開しました。

※: 事業部委員についてはサイトをご覧ください <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>



🏆 HCD ベストプラクティスアワード表彰委員会

2019年度より改めた賞のコンセプト、審査視点、審査プロセスなどを継承してオンラインでの実施となりました。

● 賞コンセプト

HCD-Netの理念「プロたちのナレッジ共有の場」を踏襲し、成果だけに限定しない「共有価値の高いナレッジ・ノウハウを賞とすること」としました。HCDに関わる幅広い層が応募しやすくなること、応募内容が活用できることを考慮しました。

● 受賞(優秀賞)

- ・子どもOSランゲージを活用した子どものハザード予測手法の開発 ～ 子どもの行動特性とアフォーダンスを活用した安全・安心設計のためのハザードチェックリスト ～ (子どもOS研究会/川本誓文氏、北中英紀氏、河崎由美子氏、後藤浩一氏、阿品智子氏、香山恒氏、谷口彰氏、中村孝之氏、曾和具之氏)
- ・HCDプロセスによる行政サービス改善と組織導入支援 ～ ライブトレーニングプロジェクト「KOBE Smart Welfare Service」 (株式会社 Consent/小橋真哉氏、小山田那由氏 他、石井真奈氏、齊藤美咲氏)
- ・サービス提供価値をベースにしたブランド開発 NEC I:Delight(アイディライト) ～ ブランド開発へのHCDの組み込み～ (NEC マーケティング戦略本部/岩田直子氏、加賀美努氏、石川貴章氏、QUAH SAESOOON 氏)

HCD-Net AWARD 2020 受賞作品の紹介ページ https://www.hcdnet.org/practice/award/5th_award/entry-1549.html

※: 事業部委員についてはサイトをご覧ください <https://www.hcdnet.org/organization/organization/hcd-975.html>



イベント一覧

2020年度は新型コロナウイルスの影響が続き、対面式のコミュニケーションが取りづらい環境でした。その中で、HCDの啓蒙活動をより多くの人に伝える手段として、より広い地域の方々に参加していただけるオンラインのイベントが定着し、さらに双方向でコミュニケーションが図れるチャットも活用して、新しい生活様式に対応しました。

HCD-Netサロン | オンラインツールのオートエスノグラフィ

2020年5月22日(金)

長谷川敦士氏(株式会社コンセント)

主催:HCD-Net 広報社会化事業部

2020年度春季HCD研究発表会

2020年6月6日(土)

「人間中心設計の実践と応用」

座長: 飯尾淳氏(中央大学)
濱島空氏(千葉工業大学大学院)
鱗原晴彦氏(株U'eyes Design)
山田菊子氏(東京工業大学)
柳田那由多氏・平社和也氏(玉川大学)
島崎龍太郎氏(クリナップ株)

「人間中心設計の手法とツールの開発」

座長: 飯塚 重義氏(神奈川大学)
大橋正司氏(サイフォン(同))
牧野祐亮氏(千葉工業大学)
尾形慎哉氏(株グラグリッド)
山本薫氏(武蔵野美術大学大学院)

「人間中心設計の教育」

座長: 安藤昌也氏(千葉工業大学)
白澤洋一氏(HCD-Net)
大崎理乃氏(東京都立産業技術大学院大学)
和井田理科氏(株JVCケンウッド・デザイン)
加藤公一氏(HCD-Net 東海支部)
飯尾淳氏(中央大学)

主催:HCD-Net 研究事業部

「人間中心設計入門 -HCDでアフターコロナの世界を創る-」

2020年6月26日(金)

上林昭氏(株日本HP)によるHCD関連の「事例」や「ユーザーについて」、「ユーザビリティ」、「HCDサイクル」の講義。
HCD-Net教育事業部傘下の講師拡大WGが作成した「HCD入門」の教材(エンジニア編とお客様と接する方々へ編)を使用。

主催:HCD-Net 教育事業部

出版記念サロン『行動を変えるデザイン』

2020年7月10日(金)

武山政直氏(慶應義塾大学)
相島雅樹氏
反中望氏
松村草也氏(株式会社リクルート)

主催:HCD-Net 広報社会化事業部

第79回HCD-Netサロン「AWARD2019年最優秀賞『動機的设计』発案者にいろいろ聞いてみよう!」

2020年7月17日(金)

由井真波氏(旬リンク・コミュニティデザイン研究所・成安造形大学)

主催:HCD-Net 広報社会化事業部

HCD-Net東海支部設立記念セミナー「エンジニアの立場で考えるUXデザイン」

2020年7月18日(土)

安藤昌也氏(千葉工業大学)

主催:HCD-Net 東海支部

「HCDコンピタンス知識編「ユーザビリティ評価」(全3回)」

2020年9月2日/9月9日/9月16日(水)

伊藤泰久氏(オムロン エキスパートリンク株)
人見幸香氏
樽本徹也氏(利用品質ラボ)

主催:HCD-Net

HCD-Netフォーラム2020: ニューノーマル ~誰も取り残さない未来へ~

2020年11月27日(金)/28日(土)

「これからの“ニューノーマル”なHCDフォーラム」オープニングセッション

司会: 篠原稔和氏(理事長/ソシオメディア株)
在家加奈子氏(富士通デザイン株)
入江 真氏(株野村総合研究所)
黒田健悟氏(アクセンチュア株)
黒田由加氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株)
島威一郎氏(株シグマックス)
田村浩二氏(株シグマックス)
藤井勉氏(株日立インフォメーションエンジニアリング)
飯塚重善(理事/神奈川大、横浜市立大)

<基調講演>

熊平美香氏(一般社団法人21世紀学び研究所)
関口昌幸氏(横浜市 政策局)
平野隆氏(富士通株)
藤井保文氏(株ピービット)

<特別セッション>

白澤洋一氏(HCD-Net 認定センター)

<学術奨励賞> 表彰式

<HCD-Net AWARD 2020> 表彰式

<パラレルセッション>

中島久樹氏・周藤大輔氏(モニカ株)
加藤正義氏(富士通株)
HCD-Net 倫理規定検討ワーキンググループ(長谷川敦士氏、早川誠二氏、飯尾淳氏、飯塚重善氏、辻岡啓司氏)

<特別講演>

松島倫明氏(『WIRED』日本版 編集長)

主催:HCD-Net

2020年度冬季HCD研究発表会

2020年11月28日(土)

「人間中心設計とプロセス」

座長: 吉武良治氏(芝浦工業大学)
秀島栄三氏(名古屋工業大学)
西村歩氏(慶應義塾大学大学院)
酒井章氏(武蔵野美術大学大学院)

「人間中心設計の手法とツールの開発」

座長: 飯尾淳氏(中央大学)
鈴木舞也氏(和歌山大学)
佐々木将之氏(ギルドワークス株)
泉瑠々子氏(和歌山大学)

「人間中心設計の評価手法と事例」

座長: 松延拓生氏(和歌山大学)
堀雅洋氏(関西大学)
山田菊子氏(東京工業大学)

主催:HCD-Net 研究事業部

「ビジョンとUXデザイン~HCD事例発表会+ Future Experience(FX)フォーラム~」

2021年1月29日(金)

<ビジョンとUXデザインについての発表>
高橋克実氏(株ホロンクリエイト)

上田義弘氏(y2.Design Consulting)
郷健太郎先生(山梨大学大学院)

<HCD事例発表会>

主催:HCD-Net

共催:日本人間工学会アーゴデザイン部会

「第9回利用時の品質普及委員会談話会 ~利用時の品質情報交換会~」

2020年2月10日(水)

鈴木浩之氏(株日立製作所)
船木雪乃氏(小樽商科大学大学院)
田平博嗣氏(株U'eyes)

主催:HCD-Net ビジネス事業支援部

「HCD/UXデザインにおけるコンセプト評価とプロトタイピングを考える」

2020年2月18日(木)

伊藤泰久氏(DN Technology & Innovation株)
坂口和敏氏(山口大学)
草野孔希氏(株メルベイ)

主催:HCD-Net

「Usability/HCD関連ISO解説シリーズ 第1回」

2020年2月19日(金)

「近年JIS化されたHCDや利用時の品質に関するISO規格の解説」

福住伸一氏(理化学研究所)
平沢尚毅氏(小樽商科大学)
小林大二氏(千歳科学技術大学)
橋爪絢子氏(法政大学)
岡本鉄兵氏(株リコー)

主催:HCD-Net ビジネス支援事業部

共催:一般社団法人日本人間工学会・JENC(人間工学会内のISO対応委員会)

「医療・ヘルスケア領域における人間中心設計・デザイン」

2020年2月24日(水)

村田和之氏(株セントラルユニ)
吉見邦子氏、杉江 智哉氏(株島津製作所)
田邊友香氏(オムロンヘルスケア株)

主催:HCD-Net 関西支部

「Usability/HCD関連ISO解説シリーズ 第2回」

2020年3月10日(水)

「近年JIS化されたHCDや利用時の品質に関するISO規格の解説」

プロセス関連/CIF関連
平沢尚毅氏(小樽商科大学)
福住伸一氏(理化学研究所)

主催:HCD-Net ビジネス支援事業部

共催:一般社団法人日本人間工学会・JENC(人間工学会内のISO対応委員会)

「HCD-Net 東海支部 ミニフォーラム」

2021年3月26日(金)

加藤公一氏(ブラザー工業株)
伊藤善博氏(株デンソークリエイト)

主催:HCD-Net 東海支部

HCD-Net フォーラム

HCD-Net フォーラム2020は、「ニューノーマル ～誰も取り残さない未来へ～」と題して11月27、28日の2日間にわたりフルオンラインで開催され、200名以上の方が参加しました。今年は、デジタル化を中心として働き方や生活様式に大きな変化があった年ですが、その新しいスタイルでも誰もが取り残されず暮らせるようになるにはどうしたらよいか、HCDを通して自分たちのあり方を考える貴重な機会となりました。

フォーラム開催報告

● 11月27日

HCD-Net 理事長の篠原稔和氏の司会によるオープニングパネルでは、2020年度の新フォーラム委員を中心としたHCDにまつわるトークセッションを実施し、自身の経歴やHCDへの考え方、ならびに今後の展望をざっくばらんに語り合いました。

続く基調講演では、4名の方からこれからのニューノーマルを考える上で参考になる発表をしていただきました。

【基調講演】

- ・熊平 美香氏『VUCA時代を楽しく生きるために - 多様性に化学反応を起こすマインドセット』
- ・関口 昌幸氏『サーキュラーエコノミー plus と横浜型ニューノーマル』
- ・平野 隆氏『ワークスタイルとワークプレイスの新しい関係』
- ・藤井 保文氏『Inclusivity and SDGs』

また、HCD-Net 認定センター 人間中心デザイン基礎知識認定制度検討WGによって構築された、デザイン思考、UXデザイン、サービスデザイン、デザイン経営、利用時品質といった分野の基礎となるHCDの理念、基本的なプロセスなどの知識を得るための基礎知識体系(人間中心デザイン基礎知識体系)が紹介されました。

● 11月28日

午前中は3件のパラレルセッションと特別講演が行われ、ワークショップ形式での学びやオープンな場での語り合いが行われました。

【パラレルセッション】

- ・対話支援ツール「Morris」を使って、みんなで発見、みんなで創造 - ニューノーマルなHCDを考える -
- ・「やわらかデザイン脳」になるマインドマップ ～はじめての一歩～
- ・HCDと倫理
- ・特別講演 松島倫明氏『未来を語ることはなぜ大切なのか？ SFプロトタイピングの可能性』

午後の2020年度冬季HCD研究発表会では、口頭発表8件とビデオ発表12件、合計20件の発表が行われました。スペシャルセッション『1分間の動画作成でSDGsを「自分事」に』では、昨年に続き、晃華学園(東京都調布市)中学校・高等学校の生徒さんがオンライン登壇。マタピラ小学校(マラウイ共和国)との交流による互いの文化やSDGsの理解から映像作品へつなげていくという、人間中心的なアプローチを紹介いただきました。

※: 詳細は、「HCD-Net フォーラム2020開催レポート」をご覧ください。

1日目 <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-1573.html>

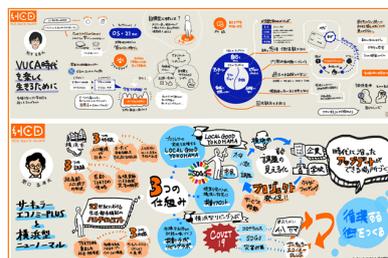
2日目 <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-1574.html>



閉会式での理事長挨拶



オープニングセッション



基調講演のグラフィックレコーディング

主なセミナー

HCD-Net 東海支部設立記念セミナー「エンジニアの立場で考える UX デザイン」

日時：2020年7月18日(土) 10:00～13:00 / 会場：オンライン

2020年、HCD-Net の2番目の地方支部として東海支部を立ち上げました。その設立記念セミナーとして、千葉工業大学の安藤昌也教授をお招きして「エンジニアの立場で考える UX デザイン」を開催しました。東海地方は特色として自動車産業をはじめモノづくりが多いため、東海地方のエンジニア向けイベントを企画しました。2020年はコロナ禍によりオンラインでの開催となりましたが、東海地方以外からも参加いただき170名を超える多くの方に参加いただきました。

セミナーでは、講演と個人での演習を行いました。また、オンライン開催の特色を活かして、チャットやQA 機能を使い、講師と参加者、参加者同士の交流ができる環境を用意しました。

※：詳細はサイトをご覧ください

HCD-Net 東海支部設立記念セミナー「エンジニアの立場で考える UX デザイン」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-1456.html>

UX デザイン連続セミナー

2019年度まで東海地区で開催していた UX デザイン連続セミナーを本年はオンラインで開催しました。当初は東京地区での開催を計画していましたが、コロナ禍により、フルリモート版にプログラム(全6回)を組み替えました。フルリモートでの開催は、講師・スタッフ共に挑戦的な企画ではありますが、ご賛同くださった受講者21名と共に完遂することができました。

セミナーは講師の井登友一氏と6名のスタッフの下、演習では4チームに分かれ、オンラインツール(Zoom、miro、Slack)を駆使して実施されました。プログラムは次のようなものでした。

- ・第1回セミナー：「価値探索のためのデザイン・リサーチ概論」(2020年7月25日)
- ・第2回セミナー：「デプスインタビューを用いた価値探索～価値抽出」(2020年8月2日)
- ・第3回セミナー：「価値の構造化とペルソナデザイン」(2020年8月9日)
- ・第4回セミナー：「ユーザー体験の俯瞰的な可視化によるアイデア発想法」(2020年8月16日)
- ・第5回セミナー：「キーモーメントの策定→具体化とアイデアの拡張発想」(2020年8月30日)
- ・第6回セミナー：「プロトタイピングによるエバリュエーション手法」(2020年9月13日)

セミナー後の懇親会もオンラインで講師の井登さんを囲んで楽しく行われました。セミナーの内容についての質問・感想などはもちろん、プラスアルファの知見・コツや参考図書、チーム運営、ツールの使い方、さらにリモートワーク、業界の裏話、仕事の悩み相談など、ディープな話題も交えて交流しました。

※：詳細はサイトをご覧ください。

「UXD 連続セミナー」開催レポート <https://www.hcdnet.org/hcd/event/entry-1461.html>

HCD の倫理

昨今、デザインの持つ社会的役割の向上に伴い、デザインはビジネスや公共施策の重要な役割を占める状況となってきました。「ダークパターン(ユーザーに不利益をもたらすデザイン)」などに代表されるようなデザインの悪用を始めとして、そもそも「自社の手がけているビジネスが利用者のためになっているのか」といった視点、はたまたユーザー調査時の倫理的配慮まで、我々人間中心デザインを掲げるコミュニティとして考えるべき論点は多岐にわたります。

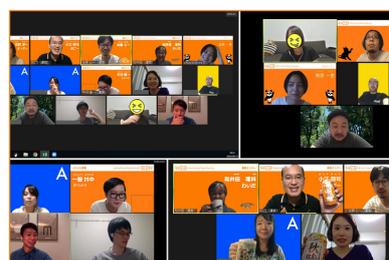
2020年度において、HCD-Net 理事会では、倫理検討ワーキンググループを組織し、5名のメンバーで7回に及ぶ検討会を開催、フォーラムにおいてはオープンディスカッションを主催しました。この結果として HCD-Net として検討すべき大きな3つの方針が見えてきました。今後は理事会での検討を経て、HCD-Net 倫理規程大綱として HCD-Net 内外に向けて発信していく予定です。



miro を使ったグループワーク：検討過程



Slack を使った質疑



オンライン懇親会

決算報告 2020年度 活動計算書 (その他事業がない場合)

書式第13号 (法第28条関係)

科 目	金 額 (円)	小 計・合 計 (円)
【A】 経 常 収 益		
1 受取会費		
正会員受取会費	10,842,000	
学生会員受取会費	40,000	
賛助会員受取会費	4,080,000	14,962,000
2 受取寄附金	0	
3 受取助成金等	150,000	150,000
4 事業収益		
調査・研究事業収益	1,274,000	
人材育成事業収益	5,170,500	
普及・啓発事業収益	1,871,500	
開発事業収益	695,056	
規格化・認証事業収益	7,440,000	
国際事業収益	0	16,451,056
5 その他の収益		
受取利息	239	
雑収入	2,005,843	2,006,082
経 常 収 益 計		33,569,138
【B】 経 常 費 用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	3,681,702	
法定福利費	0	
福利厚生費	0	3,681,702
(2) その他経費		
外注費	4,618,721	
運営費	132,121	
支払手数料	693,736	
広報費	191,340	
旅費交通費	85,080	
通信運搬費	264,762	
消耗品費	375,880	
印刷製本費	17,083	
諸謝金	6,394,366	
租税公課	823,707	13,596,796
事業費計		17,278,498
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	2,514,112	
法定福利費	414,982	
福利厚生費	0	2,929,094
(2) その他経費		
支払手数料	314,134	
旅費交通費	31,940	
通信運搬費	575,779	
消耗品費	34,492	
賃借料	17,160	
租税公課	6,293	
委託費	1,200,000	
雑費	941,225	3,121,023
管理費計		6,050,117
経 常 費 用 計		23,328,615
当 期 経 常 増 減 額 【A】-【B】 ……①		10,240,523
【C】 経 常 外 収 益	0	
経 常 収 益 計		0
【D】 経 常 外 費 用	0	
経 常 収 益 計		0
当 期 経 常 増 減 額 【C】-【D】 ……②		0
税 引 前 当 期 正 味 財 産 増 減 額 ①+② ……③		10,240,523
法人税、住民税及び事業税 ……④		70,000
前期繰越正味財産額 ……⑤		0
次 期 繰 越 正 味 財 産 額 ③-④+⑤		10,170,523

貸借対照表

書式第15号（法第28条関係）

科 目	金 額 (円)	小 計・合 計 (円)
【A】 資 産 の 部		
1 流動資産		
現金預金	32,820,113	
未収金	2,170,756	
前払金	3,850	
流動資産合計・・・①		34,994,719
2 固定資産		
(1) 有形固定資産	0	
(2) 無形固定資産	0	
(3) 投資その他の資産	0	
固定資産合計・・・②		0
【A】 資 産 合 計 ①+②		34,994,719
【B-1】 負 債 の 部		
1 流動負債		
未払金	6,219,778	
前受金	541,000	
預り金	70,277	
流動負債合計・・・③		6,831,055
2 固定負債		
固定負債合計・・・④		0
負 債 合 計 ③+④		6,831,055
【B-2】 正 味 財 産 の 部		
前期繰越正味財産額	17,993,141	
当期正味財産増減額	10,170,523	
正 味 財 産 合 計		28,163,664
【B】 負 債 及 び 正 味 財 産 合 計 【B-1】+【B-2】		34,994,719

財産目録

書式第17号（法第28条関係）

科 目	金 額 (円)	小 計 (円)	合 計 (円)
【A】 資 産 の 部			
1 流動資産			
現金預金			
普通預金 三菱東京UFJ銀行渋谷支店	29,628,308		
Paypal口座	2,893,452		
普通預金 三井住友銀行神田支店	298,353	32,820,113	
未収金			
規格化・認証事業未収金	2,170,756	2,170,756	
前払金	3,850	3,850	
流動資産合計・・・①			34,994,719
2 固定資産			
(1) 有形固定資産		0	
(2) 無形固定資産		0	
(3) 投資その他の資産		0	
固定資産合計・・・②			0
【A】 資 産 合 計 ①+②			34,994,719
【B-1】 負 債 の 部			
1 流動負債			
未払金			
3月分給与	549,769		
審査員謝金	2,219,161		
認定試験・教材等作成費	1,544,350		
認定証作成・発送費用	382,486		
業務委託費	525,800		
未払消費税等	469,700		
未払法人税等	70,000		
諸口	458,512	6,219,778	
前受金			
2021年・2022年資格維持費	541,000	541,000	
預り金			
源泉徴収税	70,277	70,277	
流動負債合計・・・③			6,831,055
2 固定負債			
固定負債合計・・・④			0
【B-1】 負 債 合 計 ③+④			6,831,055
【B-2】 正 味 財 産 合 計 【A】-【B-1】			28,163,664

計算書類の注記

書式第16号（法第28条関係）

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

(1) 消費税等の会計処理

税込処理を行なっています。

2. 事業別損益の状況

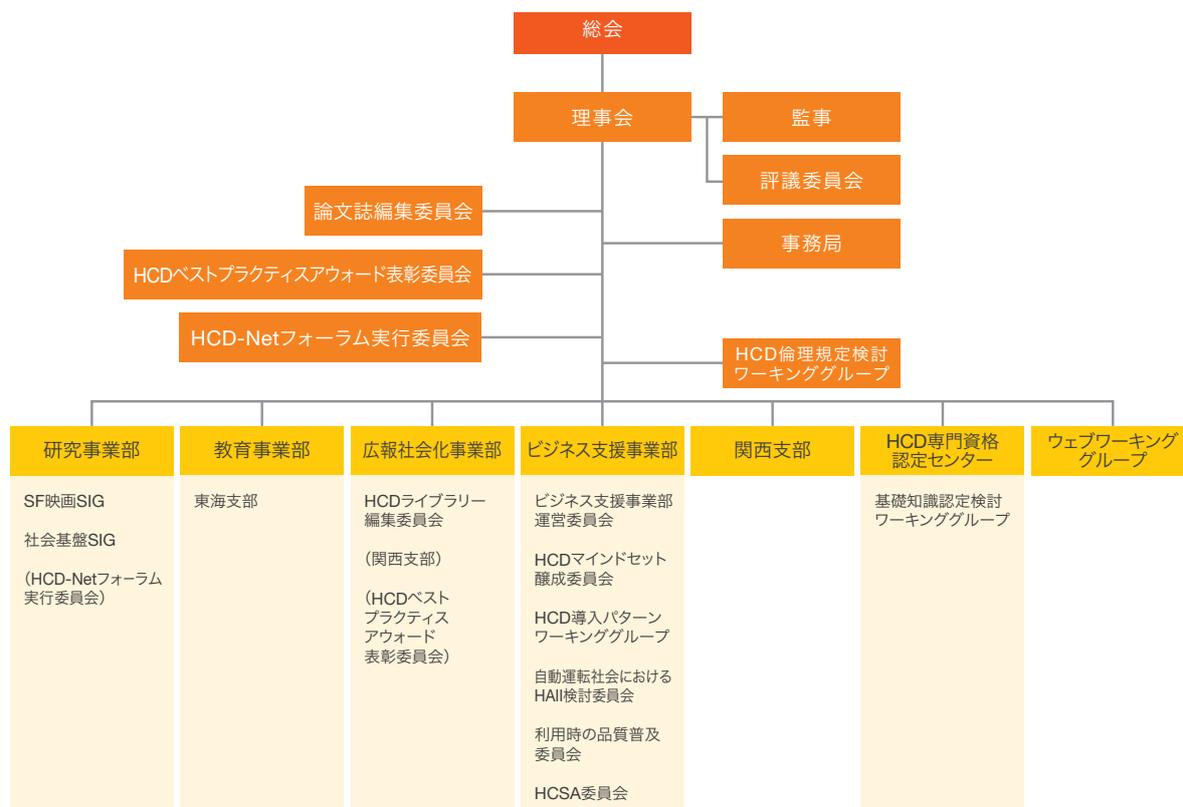
(単位：円)

科 目	調査・研究 事業	人材育成 事業	普及・啓発 事業	開発事業	規格化・認証 事業	国際事業	事業部門計	管理部門	合 計
I 経常収益									
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	14,962,000	14,962,000
2. 受取寄附金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. 受取助成金等	150,000	0	0	0	0	0	150,000	0	150,000
4. 事業収益	1,274,000	5,172,500	1,871,500	695,056	7,440,000	0	16,451,056	0	16,451,056
5. その他収益	0	0	0	1,000	0	0	0	2,006,082	2,006,082
経常収益計	1,424,000	5,172,500	1,871,500	695,056	7,440,000	0	16,601,056	16,968,082	33,569,138
II 経常費用									
(1) 人件費									
給料手当	458,126	89,600	219,350	41,763	2,872,863	0	3,936,326	2,514,112	6,195,814
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	414,982	414,982
人件費計	458,126	89,600	219,350	41,763	2,872,863	0	3,936,326	2,929,094	6,610,796
(2) その他経費									
外注費	0	0	1,249,431	0	3,369,290	0	4,618,721	0	4,618,721
運営費	0	148	131,973	0	0	0	132,121	0	132,121
支払手数料	83,977	349,005	222,928	37,826	0	0	693,736	314,134	1,007,870
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広報費	43,780	0	40,000	20,000	87,560	0	191,340	0	191,340
旅費交通費	0	0	5,450	79,630	0	0	85,080	31,940	117,020
通信運搬費	18,821	22,110	69,899	0	153,932	0	264,762	575,779	840,541
消耗品費	4,498	0	9,817	0	361,565	0	375,880	34,492	410,372
印刷製本費	17,083	0	0	0	0	0	17,083	0	17,083
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	17,160	17,160
諸謝金	294,507	2,266,708	437,519	537,755	2,857,877	0	6,394,366	0	6,394,366
租税公課	63,789	258,888	93,706	34,802	442,522	0	893,707	6,293	900,000
図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄付金支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0
委託費	0	0	0	0	0	0	0	1,200,000	1,200,000
雑費	0	0	0	0	0	0	0	941,225	941,225
その他経費計	526,455	2,896,859	2,260,723	710,013	7,272,746	0	13,666,796	3,121,023	16,787,819
経常費用計	984,581	2,986,459	2,480,073	751,776	10,145,609	0	17,603,122	6,050,117	23,398,615
当期経常増減額	439,419	2,184,041	△ 608,573	△ 56,720	△ 2,705,609	0	△ 1,002,066	10,917,965	10,170,523

3. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・事業費と管理費の按分方法各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、事務局員の給料手当、交通費については従事割合に基づき按分しています。

組織図



役員一覧

理事長：	篠原 稔和 (ソシオメディア株式会社)	監事：	早川 誠二 (HCD YOROZU Consulting) 八木 大彦 (公立はこだて未来大学)
副理事長：	長谷川 敦士 (株式会社コンセント) 水本 徹 (株式会社島津製作所) 吉武 良治 (芝浦工業大学)	【事務局】	
理事：	飯尾 淳 (中央大学) 飯塚 重善 (神奈川大学) 井登 友一 (株式会社インフォバーン) 加藤 公一 (ブラザー工業株式会社) 辛島 光彦 (東海大学) 河野 泉 (日本電気株式会社) 玉飼 真一 (株式会社 Faber Company) 羽山 祥樹 (日本ウェブデザイン株式会社) 森山 明宏 (ユーリカ株式会社) 山口 恒久 (株式会社明電舎) 和井田 理科 (株式会社JVCケンウッド・デザイン) 脇阪 善則 (パナソニック株式会社)	事務長：	中村 めぐみ
		認定センター事務長：	松本 恭幸
		財務担当：	篠原 稔和 (理事長)
		ウェブサイト担当：	羽山 祥樹

賛助会員の皆さま

五十音順 敬称略 (2021年3月末の情報)

アシアル株式会社

株式会社イード

株式会社イトーキ

株式会社インパス

インフォコム株式会社

SCSK株式会社

株式会社エクサ

NECソリューションイノベータ株式会社

株式会社NTTデータ

株式会社NTTデータMSE

沖コンサルティングソリューションズ株式会社

株式会社オネスト

オムロンヘルスケア株式会社

京セラドキュメントソリューションズ株式会社

株式会社KDDI総合研究所

コニカミノルタ株式会社

株式会社コンセント

サイフォン合同会社

サンデン・アドバンステクノロジー株式会社

シー・キュー・シー株式会社

株式会社JVCケンウッド・デザイン

シスメックス株式会社

株式会社島津製作所

一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会

セイコーエプソン株式会社

ソニーグループ株式会社

株式会社TAM

株式会社デンソー

株式会社電通

株式会社電通国際情報サービス

株式会社電通デジタル

凸版印刷株式会社

トッパン・フォームズ株式会社

トピー・テクノロジー株式会社

株式会社ニコン

日鉄日立システムエンジニアリング株式会社

株式会社ネコメシ

株式会社野村総合研究所

株式会社フライング・ペンギンズ

フェンリル株式会社

富士ソフト株式会社

富士フイルム株式会社

ブラザー工業株式会社

株式会社ミツエーリンクス

三菱総研DCS株式会社

三菱電機株式会社

村田機械株式会社

株式会社U'eyes Design

理想科学工業株式会社

横河計測株式会社

特定非営利活動法人 (NPO法人) 人間中心設計推進機構 事務局

〒162-0056 東京都新宿区若松町36-13
Modelia Colors 3F ソシオメディア株式会社内
e-mail: secretariat@hcdnet.org

www.hcdnet.org